

2021年度

【一般選抜前期 B 日程 / 共通テストプラス方式（1 日目）】

2 限 目

注 意

1. 試験開始の合図があるまで、この問題冊子の中を見てはいけません。
2. 問題冊子は 1 部、解答用紙は 1 枚です。
3. 出題科目、ページおよび選択方法は、下表のとおりです。

出題科目	ページ	選択方法
物理基礎・物理	1 ～ 7	解答科目は、選択できる科目を受験票で確認のうえ、選択しなさい。
化学基礎・化学	9 ～ 14	
生物基礎・生物	15 ～ 23	
日本史 B	25 ～ 33	
国 語	国語 1 ～ 国語 19（うしろから始まります）	

4. 解答は全てマークセンス方式です。マークは黒鉛筆（シャープペンシル可）で右の例のように正しくマークしてください。



5. 解答用紙には解答欄のほかに次の記入欄があります。

(1) 受験番号欄

受験番号を受験番号欄の上欄に算用数字で記入し、さらにその下のマーク欄にマークしてください。なお、受験番号欄には、一般選抜前期 B 日程の受験番号を記入してください（一般選抜前期（共通テストプラス方式）の受験番号は記入しないこと）。

(2) 解答科目選択欄

解答する科目を 1 つだけ○で囲み、さらにその下のマーク欄にマークしてください。

※受験番号および解答した科目が正しくマークされていない場合は、採点できないことがあります。

6. 記入したマークを訂正する場合は、プラスチック製消しゴムで完全に消し、改めてマークしてください（消しくずを残さないこと）。
7. 解答用紙は折り曲げたり、汚したりしてはいけません。
8. 解答用紙の※印欄はマークしてはいけません。
9. 問題冊子と解答用紙にページの落丁・乱丁および印刷の不鮮明な箇所や汚れなどがある場合は、手を挙げて監督者に知らせてください。
10. 試験終了後、問題冊子は持ち帰ってください。

国語

(解答番号

(1)

)

(60)

)

I

次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。(六〇点)

「抽象語」が権威のある正しい言葉という「畏」^{わな}になるかもしれないのは、そもそも抽象語とされることばが明治期に生まれた漢字による造語が多いからではないでしょうか。『翻訳語を讀む』——異文化コミュニケーションの明暗』(一九九八年)などの著作がある柳父章^{やなぶあきつ}によれば、文字のなかった日本に中国から入ってきた漢字は日本人にとって「ハクライ品」^Aであり、「新しい意味の言葉は漢字を使って造語されることが多かった」(一一〇—一一一頁)。未知のもの、すぐれたもの、憧れの対象、高級な意味は漢字で表していたので、西洋からの新しい概念は、当然、漢字で表すことになったのです。漢字一文字では新たな概念を表現することは難しいし、三文字以上は多すぎるので、二文字で表現することが多かったようです。西周^{にしあまね}は、philosophy の訳語を最初は「希哲学」と訳しました。語頭の philo が、philia 「愛」を意味するのを「希」と訳したのですが、全体で三文字になってしまったため、やがて訳語は「哲学」となりました(柳父、二〇一三年)。

「抽象」という日本語も明治の

I

です。英語の abstract を翻訳した語で、なぜ「抽象」となったかといえば、語源のラテン語 abstractus

の意味が「抜き出す」だからでしょう。最初に訳語として登場したのは、一八八一年刊行の「哲学字彙」だとされますが、「事物や現象からある要素・側面・性質・共通性を抜き出して把握すること」という意味で使われています。ところが「抽象的」という日本語は、やがて「単に観念的に思考されるだけで、実際の形態・内容を持たない」という意味でも使われるようになります。「理論」「理論的」と同じように、本来はなかった

II

意味合い

しかし、日本にない概念、目に見えない欧米の思想や制度を明治時代の知識人が苦勞して翻訳したのは、何も偉そうにしようと考えたのではなく、一般の人々を啓蒙^{けいもう}するためだったのです。

A

福澤諭吉は、そのことが日本の近代化に不可欠だと考えていたようで、抽象語を作り出して日本に

新しい概念を紹介しました。日本が欧米列強の植民地になることなく近代化を成し遂げた背景には、このような先人たちの努力があったわけです。「権利」「個人」「自然」など多くの翻訳語は、原語との微妙なずれや理解の困難さを伴いながらも、現代社会で欠かせない用語として定着しています。

「抽象」も、本来の「具体的な事象から共通性を抜き出して理解すること」と考えれば、これは知的思考には不可欠であるのが分かります。「理論と実践」と同様に、「抽象と具象」も III で、どちらも欠かせないことです。

柳文章は、「抽象的な理論」の必要性を説きながら、日本語では「抽象と具象の往復運動」ができないことを認め、その原因を漢字での造語に^Bよけています（一九九八年、一二四頁）

英語のパラグラフ構成は、冒頭で抽象的な概念提示や問題提起から入ります。その後に続けて具体的な例や根拠などを挙げて説明して主張を補強し、最後は「抽象」でまとめます。英語で書くことを学べば、抽象性と具象性をどうつなげるかを IV できると考えられます。英語の論理構成を英語教育で学ぶだけでなく、国語教育にも応用することは十分に可能ではないでしょうか。

抽象語の多くは明治時代の知識人が欧米の思想や制度を導入しようと欧米語から翻訳したことを考えれば、「訳す」というエイイ^Cの重要性が分かります。国語と英語教育の連携という視点からも、訳してみることは、ことばへの意識を深めます。最近ではTILT (Translation and Interpreting in Language Teaching = 言語教育における翻訳と通訳) と呼ばれる指導方法が関心を集めています。外国語で書かれた文章を母語に訳すだけでなく、母語から外国語への通訳や翻訳も取り入れることで、母語を V しながら外国語を学習することができます。

ただ、¹翻訳を英語教育に導入することは、実のところ容易ではありません。翻訳論の視点から明確に言えることは、言語が異なれば「等価」にはなりえないのが当然です。言語は必ず文化を内包していますから、一見、容易に翻訳できそうでも意味内容が違ったりします。

よく「日本語は特別に難しい」と言われ、「雨だって、英語なら rain だけだけど、日本語には五月雨とか、いろいろある」と言われます。「心」も、日本語の特殊性を表す語として、よく例に挙げられます。²夏目漱石による『こころ』の英語タイトルは、そのまま *Kokoro* です。作中に出てくる「先生」を、訳者であるマッケラン (Edwin McClellan) は、*Sensei* としておき、³脚註で「フランス語の *maitre* に近いニュアンスだ」と説明しました。英語では *mentor* が近いでしょう。

日本語独特の意味と用法は英語に訳しにくいのは事実です。しかし、それは日本語の特殊現象ではなく、どの言語にも独自の言語文化があり、他にない言語世界を構築しています。³日本語では「雨」に関する語彙が豊富ですが、「雪」についての語彙が多い言語もあります。日本語に訳せない、訳しにくい英語は多々あります。

B、翻訳や通訳は至難であり、⁴曲がりなりにも訳しているのは、様々な工夫を凝らしながら限りなく原語に近づけているか、時に原作からずれて読み手や聞き手の理解を優先します。「翻訳者は裏切り者」とイタリアの格言にあるのは、そのことを指しています。

そのように考えると、外国語教育の授業で「翻訳」に挑戦し、「どう訳すか」の翻訳論に終始してしまうと、外国語そのものを学習する時間が割かれてしまいます。それで、世界の多くの学習者が文法訳読法では外国語が使えるようにならないと批判したのです。日本でも同じです。

日本語に訳し日本語で文法を教えるから英語が話せない、という日本社会に

あ

強い不満を受け、現行の高校学習指導要領では「英語の授

業は英語で行うことが基本」と明記されており、二〇二〇年度から施行の学習指導要領では、中学校でも「英語の授業は英語で行うことが基本」になりました。⁵この方針はもつと議論を尽くすべきだったと思いますが、導入の理由は「外国語としての英語環境にある日本では、日常的に英語を使わない。だからせめて英語の授業だけでも英語漬けにしたい」という思いが文科省にあったからでしょう。

「基本」ということは、生徒の様子に応じて日本語を使っても構わないでしょうし、学習指導要領は法律ではなく大臣告示なので、法的拘束力はいはずです。生徒にとって良い授業を教師が考えて柔軟に対応すれば済むように思います。ところが、学習指導要領改訂以来、英語教員研修では「英語でどう授業をするか」が中心課題になっている感があります。⁶留学経験者で英語に自信があり研究授業の立役者となる教員がいる一方で、なぜ英語で授業なのだ？と反発する教員もいれば、諦めの境地の教員もいます。

C

「英語で授業をする」ことが目的化しており、何が最も生徒のために良い

授業なのか置き去りにされないかという懸念があります。

「英語で英語を教える授業」が、授業を理解できない生徒を増やし英語嫌いが多くなる、教師の英語力と生徒のリスニング力に合わせ授業内容が浅薄になる、などの弊害が明らかになると、今度は「訳読」への

VI

が強調されるでしょう。ただ、「訳す」授業についても慎重な議論は必要

だと思っています。

まず、従来型の漢文訓読式「英文和訳」のように語順を日本語的にひっくり返す訳し方にするのか、英語の語順のままに訳していく「順送り訳」「直読直解」が良いのか、という議論があります（ちなみに私がNHKの英語番組で一〇年以上行っているのは、聞いた順に訳していく同時通訳の「先入れ先出し方式」です）。

D

、正確な訳にこだわるのか、大意が把握できていれば良しとするのか。英文は理解していても、訳の日本語が稚拙な場合はどうするのかなど、論点はいろいろあります。

柳父章は、いわゆる英文和訳について、鋭い指摘をしています。英文を日本語訳する場合、「キャシーはフランス語が好きです。彼女はそれをとてもし手に話します」のように訳するのが定石ですが、これは「ヨソユキの日本語」であって、「フダンギの日本語」なら「キャシーはフランス語が好きです。とても上手に話しますよ」になる、というのです。いまだきの若者なら「キャシーってさ、フランス語が好きなんだって。

VII

だよ」となるでしょうか。

けれど、「フダンギの日本語」には主語がなかったりするので、そのままでは英語になりません。

E

日本語を英語にする場合、日本人は

「フダンギの日本語」を、いったん「ヨソユキの日本語」に直して、それを英語にしている。つまり日本人が外国人と接する際には、必ず「ヨソユキの日本語」が間に入ってくる、それは「ヨソユキの態度」で付き合っていることになる、というのが柳父の見方です（柳父、一九九八年、八〇―八六頁）。異

文化コミュニケーションの視点に立脚しての洞察です。このような「ヨソユキの日本語」は VIII の日本語と考えてよいでしょうが、起源は二〇〇〇年前に日本人が中国から漢文を受け入れた時に遡るようです。漢文を読もうとして工夫した「漢文訓読」が、江戸時代のオランダ語習得、さらに幕末の英語、フランス語、ドイツ語などの外国語習得に引き継がれ、現在でも英語学習に生きていることになります。

私見では、訳してみることで二つの言語の間の溝に気づくことは大切なので、時と場合によって英語を日本語に訳してみる、日本語を英語に訳してみることは効果的です。日常的な話しことばと書きことばの違いも明確になります。とくに日本語から英語に訳してみると、曖昧なまま理解していた日本語の意味を厳密に定義しないと英語にならないので、日本語の学習にもなり、分析力の育成につながります。ただし、正解は一つではないので、指導者の知識と力量が問われます。

一〇人の翻訳者・通訳者がいたとして、その一〇人の訳出はそれぞれ違います。どれが正しい訳か良い訳かというのは、翻訳や通訳の対象が、文学作品なのか教科書なのか技術書なのか、演説なのか対話なのか交渉かなどの目的によります。目的によって、原文を可能な限り忠実に反映するか、読者や聞き手にとっての分かりやすさをツイキユウ^Dするか、訳出の方略が異なります。文化の違いを浮き立たせる場合もあれば、なるべく異質性を感じさせないように調整する場合もあります。翻訳研究は聖書翻訳から始まりましたが、聖書はキリスト教を広めるのが目的ですから、理解され受け入れられることが最優先となり、訳出先の言語文化に合わせて違和感がないように工夫します。

翻訳に関するもう一つの格言に「不実な美女かテイシユク^Eな醜女^{とめ}か」というとんでもない比喻があります。ロシア語通訳者の米原万里さんが著書のタイトルに使ったので日本でも有名になりました。その心は、「読みやすく美しい訳文は原文に対して忠実ではない、原文に対して忠実な訳はえてして読みにくく醜い」というものです。

このような「訳すこと」の複雑さを考えると、訳し方に拘泥することは外国語学習において必ずしも生産的ではないかもしれません。二つの言語を比較対照することで差異を知ること、興味を喚起することにつながりますが、それは外国語学習がある程度進んでからのことでしょう。初歩段階では慎重にしないと、学習者が混乱するか、過度に難しいと感じてしまう恐れがなきにしもあらずです。その意味では、大学での通訳翻訳科目は、通訳者・翻訳者⁹にならなくても、母語と外国語との溝に気づく場となるので、外国語学習にとって有効だと思います。

(鳥飼玖美子 荻谷夏子 荻谷剛彦『ことばの教育を問いなおす』より。ただし出題の都合上、表現を一部改めた箇所がある)

A ① 万国ハクランカイ

(1)

- ② 港にテイハクする

- ③ 一級センパク免許

- ④ ハクシユ喝采

- ### ⑤ ハクシンの演技

- B ① 得意先からチヨツキする

- ## ② 二十年マンキの保険

- ③ ムキメイ投票

- ④ 日本工業キカク

- ⑤ ジョウキを逸する

- C ① セイエイを率いる

- ## ② インエイに富む文章

- ③ エイリ事業を行う

- ④
ダイエーダン

- ## ⑤ 街のエイガ館

D ① ハキユウ効果 (4)

- ## ① ハキユウ効果

- ② ガソリンスタンドでキュウユする

- ③ 終身刑をキユウケイする

- ④ 不正をキユダンする

- ### ⑤ フキユウの名作

- E ① 渋沢栄一にシシユクする

- ② 外出をジシユクする

- ③ シュクハイをあげる

- ④ イツシユク イツパン

- ⑤ 気持ちがイシユクする

(4)

(5)

(3)

空欄

- 空欄Ⅰ ① 代名詞 ② 遺産 ③ 爪痕 ④ 化石 ⑤ 副産物

- 空欄Ⅱ ① 学術的な ② 否定的な ③ 画一的な ④ 外面的な ⑤ 非論理的な

- 空欄Ⅲ ① 両刀遣い ② 両刃の剣 ③ 車の両輪 ④ 両手に花 ⑤ 一挙両得

- 空欄Ⅳ ① 區別 ② 証明 ③ 創造 ④ 助長 ⑤ 体得

- 空欄V ① 援用 ② 逆用 ③ 活用 ④ 借用 ⑤ 応用

(10)

(9)

(8)

(7)

(7)

空欄Ⅵ	① 発展	② 影響	③ 貢献	④ 回帰	⑤ 要求	
空欄Ⅶ	① ヘイチャラ	② ペチャクチャ	③ ペラペラ	④ ヘロヘロ	⑤ ヘラヘラ	(11)
空欄Ⅷ	① 書き言葉	② 草稿	③ 美辞麗句	④ 手紙	⑤ 漢文訓読	(12)
						(13)

問三 空欄 A 〃 E に入れるのに最も適当なことを、次の各群の ①～⑤の中からそれぞれ一つ選びなさい。

空欄 A	① したがって	② ところが	③ むしろ	④ とくに	⑤ もちろん	(14)
空欄 B	① たとえば	② さらに	③ だからこそ	④ 要するに	⑤ なかんずく	(15)
空欄 C	① しかしながら	② かえって	③ いずれにしても	④ なぜなら	⑤ さもないと	(16)
空欄 D	① 結局は	② とはいえ	③ 加えて	④ したがって	⑤ つまり	(17)
空欄 E	① しかし	② そこで	③ せめて	④ なんとあれば	⑤ たとえば	(18)

問四 傍線部 1「翻訳を英語教育に導入することは、実のところ容易ではありません」とあるが、筆者はその理由をどのように述べているか。その説明として最も適当なものを、次の ①～⑤の中から一つ選びなさい。

- ① 外国語で書かれた文章を母語に訳すだけでなく、母語から外国語への通訳や翻訳も取り入れる TILT という指導方法が十分に浸透していないから。 (19)
- ② それぞれの文化を内包する言語が異なれば、それらは「等価」になることはなく、一見、容易に翻訳できそうでも意味内容が違ふことが普通だから。 (19)
- ③ よく「日本語は特別に難しい」と言われ、日本語独特の意味と用法は、英語には翻訳しにくいだが、それは日本語の特殊現象というわけではないから。 (19)
- ④ 日本では、抽象語の多くは、明治時代の知識人が欧米の思想や制度を導入しようと、欧米語から苦心して翻訳したという歴史的な経緯があるから。 (19)
- ⑤ 独自の文化、世界をもった他言語を完全に翻訳するのは難しく、「どう訳すか」に悩まれているのは、英語自体の学習時間が充分に取れなくなるから。 (19)

問五 傍線部2「夏目漱石による『こころ』」とあるが、作者と作品の組み合わせが適当なものを、次の①～⑨の中から二つ選びなさい。

(20)

(21)

(22)

- | | | | |
|----------------|--------------|-------------|-------------------|
| ① 梶井基次郎―『山月記』 | ② 森鷗外―『山椒魚』 | ③ 安部公房―『潮騒』 | ④ 井上ひさし―『ノルウェイの森』 |
| ⑤ 芥川龍之介―『藪の中』 | ⑥ 堀辰雄―『瀬東綺譚』 | ⑦ 太宰治―『細雪』 | ⑧ 夏目漱石―『夢十夜』 |
| ⑨ 川端康成―『伊豆の踊子』 | | | |

問六 傍線部3「日本語では『雨』に関する語彙が豊富です」とあるが、日本語の「雨」に関することばについて、後の問いに答えなさい。

a 「こぬか雨」の意味として最も適当なものを、次の①～⑤の中から一つ選びなさい。

(23)

- | | | | | |
|---------------|--------|---------|---------|---------|
| ① 降ったり止んだりする雨 | ② 恵みの雨 | ③ こまかい雨 | ④ 突然降る雨 | ⑤ すぐ止む雨 |
|---------------|--------|---------|---------|---------|

b 「雨後の筍」の使い方が適当でないものを、次の①～⑤の中から二つ選びなさい。

(24)

(25)

- | |
|----------------------------------|
| ① 子どもの背丈が雨後の筍のように伸びてきた。 |
| ② 新駅の近くに新しいマンションが雨後の筍のように造られている。 |
| ③ 彼はいつも雨後の筍のように返答をする。 |
| ④ 新しいアイドルが雨後の筍のように現れる。 |
| ⑤ 同じような学校が雨後の筍のように続出した。 |

問七 傍線部4「曲がりなりにも」、傍線部6「感があります」、傍線部7「立役者」、傍線部8「定石」の本文中の意味として最も適当なものを、次の各群の①～⑤の中からそれぞれ一つ選びなさい。

- | | | | | | |
|------|-----------|------------|-----------|-----------|-----------|
| 傍線部4 | ① どうにか | ② 十分に | ③ 人並みに | ④ 適度に | ⑤ 同じように |
| 傍線部6 | ① 予感があります | ② きらいがあります | ③ 実態があります | ④ 記憶があります | ⑤ 印象があります |
| 傍線部7 | ① 開拓者 | ② 中心人物 | ③ 指導者 | ④ 世話役 | ⑤ 引受人 |
| 傍線部8 | ① 役立つやり方 | ② 重要なやり方 | ③ 美しいやり方 | ④ 決まったやり方 | ⑤ 個性的なやり方 |

(29)

(28)

(27)

(26)

問八 空欄

あ

に入る漢字と同じ漢字が

に入るものを、次の①～⑨の中から三つ選びなさい。

(30)

(31)

(32)

① 草の を分けて捜す

② 親の 子知らず

③ 縁の下 持ち

④ 初 忘るべからず

⑤ も葉もない噂うわさ

⑥ 事実無

⑦ 他 本願

⑧ 旅は情け、人は

⑨ 弾 に富む

問九

傍線部5「この方針はもっと議論を尽くすべきだった」とあるが、筆者は、「この方針」についてどのようなことを述べているか。その説明として最も適当なものを、次の①～⑤の中から一つ選びなさい。

(33)

① 教育現場には、英語教育について多様な意見を持った教員がいるのだから、彼らが、教員研修などで十分な理解を深めるまで、この方針の導入には慎重であるべきではなかったか。

② この方針は、あくまで「基本」であり、法的拘束力もないのだから、生徒にとって良い授業を教師が考えて柔軟に対応していれば、大きな問題が生じることはないだろう。

③ この方針が示されたことによって、「英語で授業をする」という手段の方が中心課題となり、生徒のために良い英語の授業をするという目的がおおざりになるのではないか。

④ この方針に素直に従って、「英語で英語を教える授業」をした結果、授業を理解できない生徒を増やし英語嫌いが多くなる、といった弊害が明らかになってきた。

⑤ たいした議論もせず、この方針を文科省が導入したのは拙速そくの謗りを免れないが、文科省には彼らなりの思いがあったことには、一定の理解を示さなくてはならないだろう。

問十 傍線部9「大学での通訳翻訳科目は、通訳者・翻訳者にならなくても、母語と外国語との溝に気づく場となるので、外国語学習にとって有効だと思います」

とあるが、それはなぜか。その説明として最も適当なものを、次の①～⑤の中から一つ選びなさい。

(34)

① 外国語学習の初歩の段階では、訳し方にこだわっていると、学習を阻害してしまうことになりかねないが、学習がある程度進んだ段階では、二つの言語の差異を知ること、外国語学習に対する興味を呼び起こすことになるから。

② 外国語学習の初歩の段階では、学習者の混乱を避けるために、「訳すこと」の複雑さまで知る必要はないが、学習がある程度進んだ段階では、翻訳や訳出の対象の目的に応じて、臨機応変に訳し方を変更できるようにするから。

③ 外国語学習の初歩の段階では、「訳すこと」の複雑さを教えても理解することはできないが、学習がある程度進んだ段階では、二つの言語の差異を知ること、たくさんの訳出の方法を身につけることができるようになるから。

④ 外国語学習の初歩の段階では、「訳すこと」の複雑さを知ってしまうと、学習を深める意欲を失ってしまうが、学習がある程度進んだ段階では、指導者の知識と力量次第で、いくらでも生産的な学習を行うことができるようになるから。

⑤ 外国語学習の初歩の段階では、訳し方に拘泥しても、学習者の興味を喚起する程度で、あまり生産的な方法とは言えないが、学習がある程度進んだ段階では、二つの言語を比較対照して差異を知ることが独力でできるようになるから。

II

次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。(四〇点)

私の通っていたのは、東京西郊の私立小学校であったが、昭和十九年の九月に、シンシウ^Aへ集団疎開をする計画が決った。参加は強制ではなく、残留を申出る事も出来たが、その承認には条件が付けられた。利用交通機関は省線電車に限り、しかも四十五分以内で通学可能な者、というのである。私鉄沿線に住む私は、当然、該当しなかったが、母は、私を何とか手許^{てもと}に留めようと望んだ。一年半前に父が病死したあと、私とまで別れたくはなかったであろう。私自身もむろん、東京へ残りたい気持ちが強かった。そして二人で考え出したのが、私鉄を使わず、約八^{キロメートル}離れた省線の駅まで、自転車で通うという方法なのであった。自転車は駅前の預り所に預けておけばいい。それでも学校まで四十五分では行けないが、その点は

I

もらえるだろ

通学時間の超過を承知で学校が残留を認めて呉れたのは、恐らく母に同情したからであろう。それから私たちの自転車探しが始まった。新品を買う事など思いもよらない。私は乗り方を覚え立ての二年生に買ってもらった小型自転車を一台持っていたが、通学には使い物にならなかった。母は、自分の伯母^Bの、オウシヨウした息子が使っていたのを、譲るなり一時貸すなりしてもらえないかと頼みに行ったが、

「つまらない苦労してないで、子供なんかさっさと疎開させちまったらどうなんだい」

と伯母¹にあしらわれ、顔色を変えて帰って来た。

「こんな世の中、人を当てにするのが間違いだって、よく解^{わか}ったわ」

母は向き合^{すむ}って坐^{すわ}らせた私を見据^みえて言った。

「自転車はどうしても駄目なら、今まで通り電車でお行きなさい。判^{わか}りやしませんよ。見付^みかったって構^{かま}やしない。母さんが事情を話して上げます。先生だって、文句は言えない筈^{はず}よ」

時勢への不安が、母を猛^{もう}だけしくさせていたのだったと思う。²私は氣後^{うなず}れして頷^{うなず}くしかなかった。

あ

前可愛^{まへ}が²ってやっていた植木屋の徳治郎の実家から譲り受ける事になったのである。父の命日

に、卵を手土産にして、線香を上げに来て呉れた彼は、母から自転車に困っている話を聞くと、

「自転車って言やあ、田舎の家に古い奴^{やつ}が一つあったっけなあ」

と言^いい出したのである。彼の実家は秩父に近い山間の村の農家であり、彼の兄が当主だという。

「正月に帰ったときには、確かにあつたな。納屋の梁^{はり}に逆^{さか}さに吊^{つる}してあつたっけ。どうせ使^{つか}ってやしないんだから、兄貴に売^かれ³って掛^か合^あつたら、ま、九分⁴

九厘はうんと言うね」

「頼むわ、徳さん。お値段は、少々なら、無理しますから」

「お宅の方から出向いて、兄貴と談合して呉れるといいんだがね。二里ばかり山道を歩いてもらわなきゃなんないから、辛いかないけど」

こうした遣取りの末、母に代って私が、徳治郎の実家まで行く事になった。母は代金の百円のほかに、父の遺した背広を一着私に持たせた。

郊外電車の出る駅で落合った徳治郎は、脚絆に地下足袋の仕事へ行くときのような身拵えだったが、左足を引摺り、顔をしかめていた。

「おとつい、うっかり釘を踏み抜いちまってね」

「建物疎開に引掛って、ぶっ壊した家の古材をもらって来て積んであった奴を、片付けようとしてやっちゃったんだ。ま、Ⅱ みたいなもんだな」

Ⅱ、と彼の言う意味は、よく解った。空襲による火災を防ぐために、密集地の建物の破壊を強制する建物疎開は、住民の秘かな怨みを買

い、自分の家の取壊された跡の空地に一晩中坐って哭き続けた老女の話などが忿懣をこめて伝えられていた。

私は、徳治郎が腫れた足で二里の道を歩けるのかと心配したが、彼は、

「心配ねえよ」
と言ったきり、電車へ乗り込んでからも、腕を組み、眼を瞑って口を利かなかった。

徳治郎は、そのころ四十代にさしかかったところだったであろう。

「あいつは一刻なもので、仲間としつくり行かないたちらしいよ」

といつか父が母に

Ⅲ

のを私は聞いている。確かに、植木の手入れに数人で来たときにも、彼一人は離れて、垣根の繕いや育ちの悪い木の

植替えをやっている事が多かったような気がする。彼は余った竹材で、私に筆立を作って呉れたりもしたが、或るとき、私が彼の剪定鋏をいじっている

と、後ろから近付いた彼に、物を言わずに取上げられてしまった。父は、彼の一刻なところが好きだったのに違いない。

二時間余りのちに降り立った駅には、木立の深い山が思わず見上げずにはいられなくなるほど近く迫り、十月初めの陽の色が漲る空に、真夏のような白

い雲が湧いていた。顔見知りらしい駅前の雑貨屋で、徳治郎は太めの杖を借りた。

「こいつさえありゃあ、足悪くたって、幾らでも歩けるよ」

彼は初めて笑顔を見せ、

「こつちへ貸しなさい」

と私がつけていた風呂敷包を取って、斜めに肩に懸けた。

「さあ、行くよ」

駅を背に、谷川に併行して山へ分け入る道を、私たちは歩き始めた。痛む足を庇^{かば}って、身体全体で調子を取るようにながら、徳治郎の
IV
は早かった。道は、緩やかなキ^クフクを繰返しながら徐々に位置を高め、川は遠く下の方に、時おり木の間越しにのぞかれるばかりとなったが、流れの音は
高くなり低くなりしながら、絶えず響いていた。

崖^{がけ}縁に、濃い葉を繁^{しげ}らせた桜の木が六本並んでいる場所があった。そこから先は、道が下りに向っている。

「休むかな」

と徳治郎は、桜の根方の叢^{くさむら}に足を投げ出して坐った。

「ここまで来りゃ、あとは楽だからね」

歩き出してから、ほぼ一時間が経^たっていた。汗に濡^ぬれた首筋を向い側の山から吹き降す風が無^なで過ぎる。川は、私たちの真下で大きく彎曲^{わんきよく}し、蒼^{あお}みが
かった淵^{ふち}を作っていた。

「何かね、これは」

徳治郎は、肩から外した風呂敷包を叩^{たた}いてみせ、父の背広だと知ると、

「ほう」

とひどく愕^{おどろ}いた顔をした。

「ちよいと、開けてみたっていいかね」

紺の地に細かい縞柄^{しまがら}の入った冬の背広である。徳治郎は、それを眼の前に掲げて

V

眺めていたが、やがて我慢し切れなくなったように、

腕を通してみた。

「立派なもんだ。旦那は
VI
だったからなあ」

縁側で弁当を使う彼の傍^{かたわら}に跼^{かが}んで、煙草^{たばこ}を喫^すいながら、何かと話相手になってやっていた父を、私は思い出した。父は胸を病んで、家で寝たり起きたり
している時期が長かったのである。尤も私は、父が
VI
であったとは思わない。

「ぼろ自転車一つもらうのに、何もこんな立派な服をやる事はないんだ」

彼は服を脱ぎ、叮嚀^{ていねい}に畳み直して言った。

「こいつは私が頂いておきます」

宣言でもするようなきつぱりした物言いに、釣⁷り込まれて私は、つい頷いていた。

「兄貴にはとやこう言わせやしません。こんな服着せたら、却^{かえ}っておかしいよ。奥さんには、明日にでもお礼に伺いますが、あんたからも言っておいて呉れれば有難いな。洋服は徳治郎が、旦那のお形見にチョウダイ^D致しましたって」

この無^ふ躰^{しつ}けなやり方を、母は怒らず、むしろ歎^{なげ}ぶだろう、と私は思った。最近の母が、父といささかでも関わりのあつた人たちとの繋^{つな}がりを失いたくないと念じているのを、私は知っていた。

自転車は、徳治郎が言った通り、納屋の梁に荒縄で括^くり付けてあつた。

「長い間使わねえで、油は切れてるし、パンクもしてるだろうによ」

とトウワク^Eげに兄が言うのに構わず、徳治郎は鎌で縄を切つて降した。無骨な自転車であつた。

「重たいぞ。何しろ、田舎道でリヤカー^ひ曳^ひくの専門に使つてた奴だから」

と徳治郎が言つた。私は、殆^{ほとん}ど呆^{あつ}氣にとられて、埃^{ほこり}だらけの黒い車体を眺めた。錆^{さび}の吹いたハンドルも、罅^{ひび}割れた革製の坐^ざ席^{せき}も、後部の荷台も、普通のものより一廻^{ひとまわ}りは大きく、パンクしたタイヤは醜^{みにく}く潰れていて、私に乗りこなせようとは、とても信じられなかつた。

「手入れをすれば良くなる」

徳治郎は、私のがっかりした様子を察したのだつたらう。

「なあ、兄さん、村瀬へでも持つて行けばやって呉れるな」

「まあな」

村瀬とは、村のよろず屋でもあるのだろうか。徳治郎より十歳近くも年長らしい兄の氣乗りのしない口調が私の氣に懸つた。

囲^い炉^ろ裡^りに炭火を埋^いけた座敷へ移つてからの交渉で、問題の自転車は、よく手入れをした上、鉄道便で送つてもらふ事に話が決つた。徳治郎が勝手に段取りを立て、VII 兄に押付けたのである。

「田舎者つてのは、ああいったもんだ」

弁当を使い、炉の火で焼いた玉蜀黍^{とうもろこし}を振舞われたあとの帰り道で、徳治郎は齒^は痒^{がゆ}そうに言つた。

「持つてる物は、ごみ屑^{くず}だつて放したがないんだから、かなわないよ」

私は彼の身勝手⁸が可笑^{おか}しかった。彼は、私の父の背広の話を、とうとう兄にはしないで済ませてしまったからである。

往きと同じ桜の木の下で私たちは休んだが、徳治郎は、

「ずきずきして来やがった」

と辛そうであった。地下足袋を脱いで風を通す彼の蹠に、べったりと緑色の軟膏が塗られていた。往復四里の道を歩くのはやはり無理だったのか、彼は帰ってから熱を出し、数日寝込んだと聞いた憶えがある。

⁹ 集団疎開をする同級生が東京を発つ直前になって、自転車はようやく届いた。タイヤは修理され、ハンドルの錆も落されていたが、田舎で見たときよりも更に大きく感じられた。玄関の三和土には収まり切れないのを知って、母は、

「これじゃ、お守りが大変ねえ」

と不服を言ったが、ほっと安堵した様子は露わであった。私も欲ばなくてはいけなかったのだろう。

しかし私は、意外に早くその自転車に馴れた。家を出て省線の駅までの間に、上り坂が三つ、下り坂が二つあった。上り坂の一つは荷馬車が上れぬほど勾配が急であり、初めは三分の一も行かぬうちに車を降り、押して歩かなければならなかったが、一と月ほど経つうちには、息を弾ませ、車体の上に突立つような恰好ではあっても、どうにか上り切れるようになった。坂ばかりでなく、平地でも重い車体を駆って少しでも急ぐとすれば、突立って足に全力を籠めなければならなかったので、速度を出そうとすると、ふと腰を上げる癖は、現在の私にもまだ遺っているような気がする。

（高井有一『掌の記憶』より。ただし出題の都合上、表現を一部改めた箇所がある）

問一 二重傍線部A～Eのカタカナを漢字で書いたときに、その漢字と同じ漢字をふくむものを、次の各群の①～⑤の中からそれぞれ一つ選びなさい。

A

① ハン|シン・淡路大震災

(35)

② シン|ゲンな境内

③ シン|キまき直し

④ 選挙で国民にシン|を問う

⑤ ワシン|条約

B

① オウ|ブンの負担

② 学問にオウ|ドウなし

③ オウ|セイな食欲

④ オウ|ネンの名投手

⑤ オウ|トウ忌（太宰治の命日）

C

① 事業がキ|ドウに乗る

② 人生のキ|ロに立つ

③ 建築物のキ|ソ

④ 『ニホンシヨ|キ』

⑤ エン|ギをかつぐ

(37)

(36)

D

① タイ|ヤクを任される

② 名はタイ|をあらわす

③ タイ|ボウの品が手に入る

④ アクタイ|をつく

⑤ 不^ふ倶^ぐタイ|テンの敵

E

① バト|ウを浴びせる

② 父とのカ|ットウに悩む

③ イツキトウ|センの活躍

④ トウ|シを燃やす

⑤ ソウ|トウの鷺^{わし}

(38)

(39)

問二

空欄

I

VII

に入れるのに最も適当なことを、次の各群の①～⑤の中からそれぞれ一つ選びなさい。

空欄Ⅰ

① 一目置いて

② 目を掛けて

③ 長い目で見て

④ 大目に見て

⑤ ひいき目に見て

(40)

空欄Ⅱ

① 大目玉を喰らった

② 罰が当たった

③ 生き恥を晒した

④ 虎の威を借る狐

⑤ 弱り目に祟り目

(41)

空欄Ⅲ

① 問い質した

② 能書きを並べた

③ 洩らした

④ 言いつけた

⑤ 触れ込んだ

(42)

空欄Ⅳ

① 足並み

② 足腰

③ 足踏み

④ 足回り

⑤ 足取り

(43)

空欄Ⅴ

① やいのやいのと

② きよときよとと

③ しおしおと

④ にやにやと

⑤ しげしげと

(44)

空欄Ⅵ

① 着道楽

② 伊達の薄着

③ 着せ替え人形

④ 着倒れ

⑤ 借り着より洗いう

(45)

空欄Ⅶ

① 抜け目のない

② ねちっこい

③ 取り付く島もない

④ 煮え切らない

⑤ 恩着せがましい

(46)

問三

傍線部Ⅰ

「あしらわれ」、傍線部Ⅲ「掛合ったら」、傍線部Ⅴ「二刻な」、傍線部Ⅶ「釣り込まれて」の本文中の意味として最も適当なものを、次の各群の①～⑤の中からそれぞれ一つ選びなさい。

みまき

の、次の各群の①～⑤の中からそれぞれ一つ選びなさい。

傍線部Ⅰ

① やんわりと断られ

② 責め苛まれ

③ 嫌味を言われ

④ 疎んじられ

(47)

傍線部Ⅱ

⑤ いい加減に扱われ

② 主張したら

③ 相談したら

④ 勧めたら

⑤ おだてたら

(48)

傍線部Ⅲ

① 先に約束したら

② 主張したら

③ 相談したら

④ 勧めたら

⑤ おだてたら

(49)

傍線部Ⅳ

① 頑固な

② 粗暴な

③ 物好きな

④ 陽気な

⑤ 気が利かない

(50)

傍線部Ⅴ

① 次第に薄らいだ

② どんよりと澱んだ

③ 明るく色づいた

④ 消え失せた

⑤ 慰められて

(51)

傍線部Ⅵ

⑤ いっぱいに広がった

② 導かれて

③ 持て囃されて

④ 惹かれて

⑤ 慰められて

(52)

傍線部Ⅶ

① 唆されて

② 導かれて

③ 持て囃されて

④ 惹かれて

⑤ 慰められて

(53)

問四 傍線部2「私は気後れして^{うなず}頷くしかなかった」とあるが、このとき「私」はなぜそのように振る舞ったか。その説明として最も適当なものを、次の

① ～ ⑤の中から一つ選びなさい。

(52)

① 自分が集団疎開に参加せず、東京に残留する条件を満たすために母がいろいろと画策してくれている点が申し訳なく、ここで母を諫めると、母の行為をすべて否定してしまうことになると思われたから。

② 自分が集団疎開に参加せず、東京に残留する条件を満たすためのアイディアも行き詰まり、開き直って、やや強引に事を進めようとする母の荒々しい物言いに、思わず圧倒されてしまったから。

③ 自分が集団疎開に参加せず、東京に残留する条件を満たすために必要な自転車を探すことを決して諦めようとせず、周りの人々との間に軋轢が生じることも厭わない母の執念には頭が下がるから。

④ 自分が集団疎開に参加せず、東京に残留する条件を満たすための方法を二人で考え出したのに、肝心の自転車が見つからないことにいら立ち、周囲に八つ当たりする母の物言いに反抗できなかったから。

⑤ 自分が集団疎開に参加せず、東京に残留する条件を満たすためにあれこれと考えた方法がことごとく裏目に出てしまい、子どもながら、東京に留まるのはもう無理だということが分かったから。

問五

空欄

あ

に入る漢字と同じ漢字が

に入るものを、次の① ～ ⑨の中から三つ選びなさい。

(53)

(54)

(55)

① 一気呵^か

② 一蓮托

③ 起死回

④ 故に長^たける

⑤ 憎まれっ子^{はばか}に憚^{はば}る

⑥ 喧嘩^{けんか}両

⑦ 曲学阿

⑧ 袖振り合うも多^いの縁

⑨ 失敗は^い功の母

問六

傍線部4「九分九厘」と同じように、空欄に同じ数字が入る熟語を、次の① ～ ⑨の中から三つ選びなさい。

(56)

(57)

(58)

① 遮^し無^む

② 再^{さい}再^{さい}

③ 臆^{おく}臆^{おく}

④ 唯^{ただ}無^む

⑤ 書^し経^{けい}

⑥ 進^{しん}退^{たい}

⑦ 面^{めん}面^{めん}

⑧ 角^{かく}面^{めん}

⑨ 者^{しや}扱^{かく}

問七 傍線部8「彼の身勝手」とあるが、これは徳治郎のどういう言動を指しているか。その説明として最も適当なものを、次の①～⑤の中から一つ選びなさい。

(59)

① 徳治郎は、自転車の件で兄に文句を言わせないと大見得を切ったのに、実は、元々、兄が自転車を手放すことに同意していなかったことを隠して、わざわざ「私」を談合の場に連れてきたこと。

② 徳治郎の兄のところにあつた自転車が、実は、田舎道でリヤカーを曳く用に使っていたもので、「私」が乗りこなすには不向きであることを、徳治郎は知っていながら、期待を持たせていたこと。

③ 徳治郎の兄は、自転車を手放すことに気乗りはしていなかったが、結局は、弟の顔を立ててくれることになったのに、その兄のことを、徳治郎がこき下ろすように言い募ったこと。

④ 徳治郎は、自転車を手放すことに乗り気でない兄のことを、田舎者は物に執着すると悪く言っているが、当の徳治郎自身が、父の背広に対する執着心から、背広の件を兄には内緒にしたこと。

⑤ 徳治郎は、「私」がその自転車を気に入らず、がっかりしているのを知っているだろうに、自転車を手放すことに乗り気でない兄とさつさと交渉して、修理、運搬の手筈を整えてしまったこと。

問八 傍線部9「集団疎開をする同級生が東京を発つ直前になって、自転車はようやく届いた」とあるが、その自転車が届いた直後の母の様子と「私」の

気持ちは、どのようなものであったか。その説明として最も適当なものを、次の①～⑤の中から一つ選びなさい。

(60)

① 自転車の予想外の大きさに不満を口にした母だが、面倒な手配を引き受けてくれた徳治郎への感謝の気持ちは隠さない様子である。それに対して、「私」は、母には申し訳ないが、いろいろな人の手を煩わせてまで自分が東京に留まることは、独りよがりな考えではないかと感じ始めている。

② 自転車の予想外の大きさに不満を口にした母だが、これで「私」を一人で遠い小学校に通わせることができると胸を撫で下ろしている様子である。それに対して、「私」は、みすばらしかった自転車がきれいに修理されて届いたことに驚き、徳治郎の田舎でふて腐れた自分を恥ずかしく思っている。

③ 自転車の予想外の大きさに不満を口にした母だが、ようやく自転車が届いたことで、「私」を東京に留まらせる口実ができたことにほくそ笑んでいる様子である。それに対して、「私」は、自転車の大きさに及び腰になって、母の目の前で、母と同じように歓べなかったことに気がとがめている。

④ 自転車の予想外の大きさに不満を口にした母だが、自転車を確保できたことで「私」が東京に残留する名目が立ったことに一安心の様子である。それに対して、「私」は、田舎で見たときよりも更に大きく見えた自転車をとても乗りこなす自信がなく、母のように素直に歓べないでいる。

⑤ 自転車の予想外の大きさに不満を口にした母だが、このご時世に自転車が手に入ったことには上機嫌の様子である。それに対して、「私」は、貴重な自転車が手に入ったことは嬉しいことだが、この自転車に乗り慣れるためには相当な時間と覚悟が必要だと自分を奮い立たせている。

ご注意

1. 本書の一部あるいは全部について，発行者の許可を得ずに，無断で複写・転写することは禁じられています。
2. 本書の内容に誤り・誤字脱字などございましたら，ご連絡いただけると幸いです。

2021/7/1

発行・制作:広島国際大学入試センター

連絡先:739-2695 広島県東広島市黒瀬学園台555-36

TEL: 0823-70-4500 FAX: 0823-70-4518

Mail: HIU.Nyushi@josho.ac.jp

URL: <https://www.hirokoku-u.ac.jp/>

Copyright © 2021 Hiroshima International University, All rights reserved.
